【５】長崎地域の救急搬送の将来予測

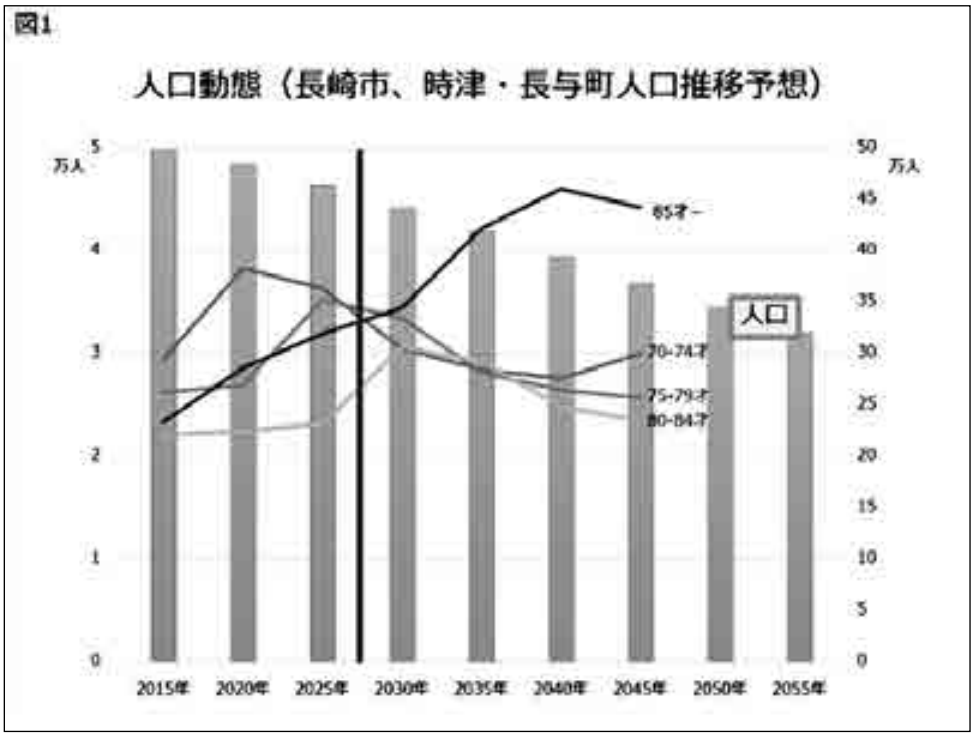
社会医療法人春回会　井上病院　井上　健一郎

【はじめに】

長崎地域の救急搬送データをもとに過去10年間の搬送の概況を確認するとともに2016年度の搬送記録をもとに将来の搬送を予測してみた。

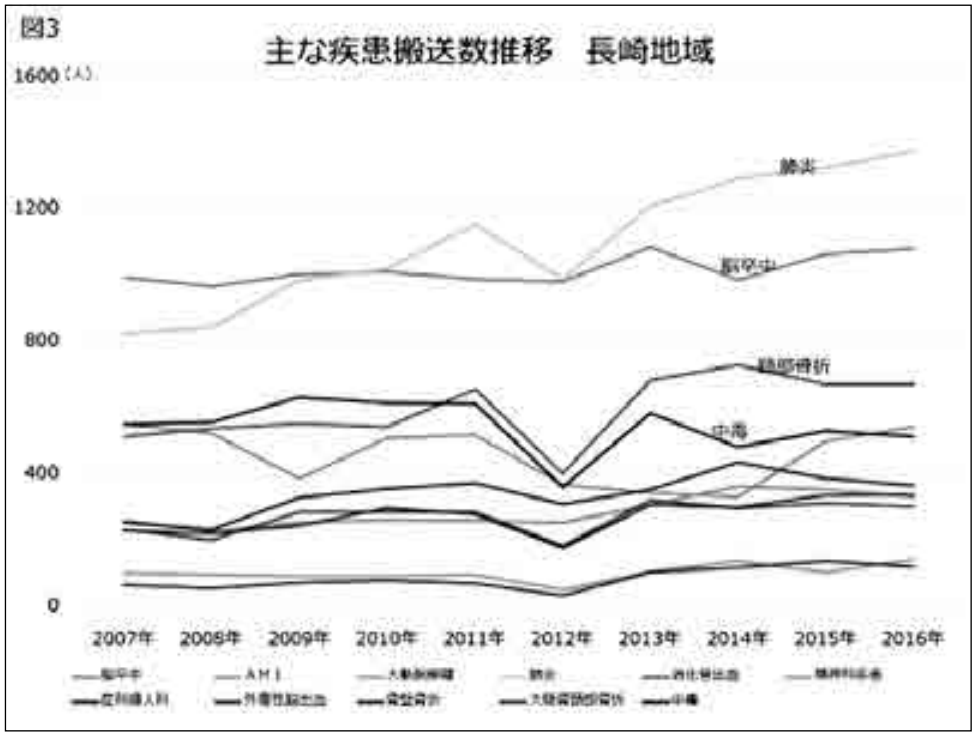
【人口減、高齢化について】

長崎地域（長崎救急医療圏　長崎市、時津町、長与町）の2016年の人口は約52万人、高齢率は30.6%である。人口は1975年をピークに減少しており、2025年には46万人、2040年には40万人を割ると予想されている。しかしながら高齢者人口は増加しており、中でも85歳以上の増加は著しく年齢層別にみると2025年頃には85歳以上が最多を占めると予測されている（図１）。



【搬送数推移】

過去10年間、人口は減少しているにも関わらず搬送数は漸増している（図２）。85歳以上の搬送数が増加しているために全体の搬送数が増えていることがみてとれる。また、疾患別にみると2010年代の上位３疾患は脳卒中、肺炎、中毒であったが、この数年は肺炎、脳卒中、大腿骨頸部骨折の順となっている（図３）。

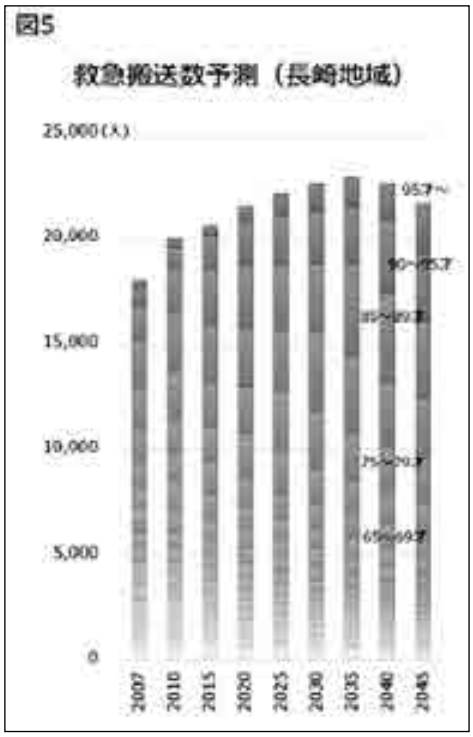


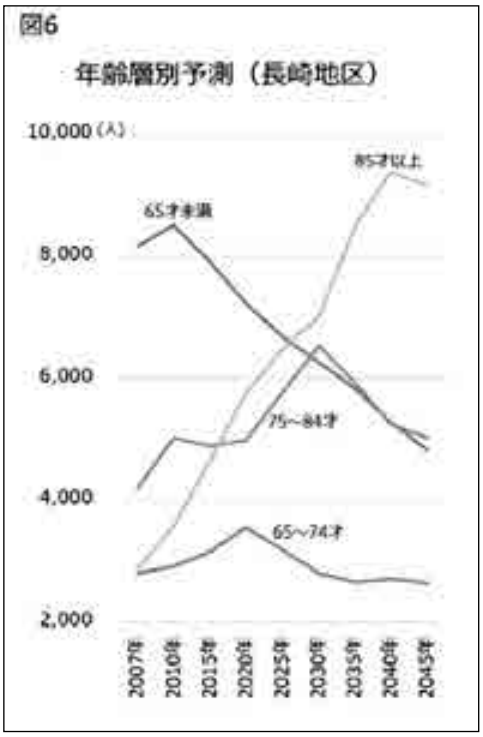
【2016年度の搬送実数・高齢化の影響】

年齢層別に搬送者の転帰等をみたのが図４である。搬送後に入院となるものは年齢とともに増え、85歳を超えると75%以上に達する。一方手術を要したものの比率は中年までは徐々に増えるが、それ以降は10％前後と高齢化の影響は少ない。搬送元をみると、介護施設からの搬送は75歳より増加し90歳を超えると1/4以上に達する。

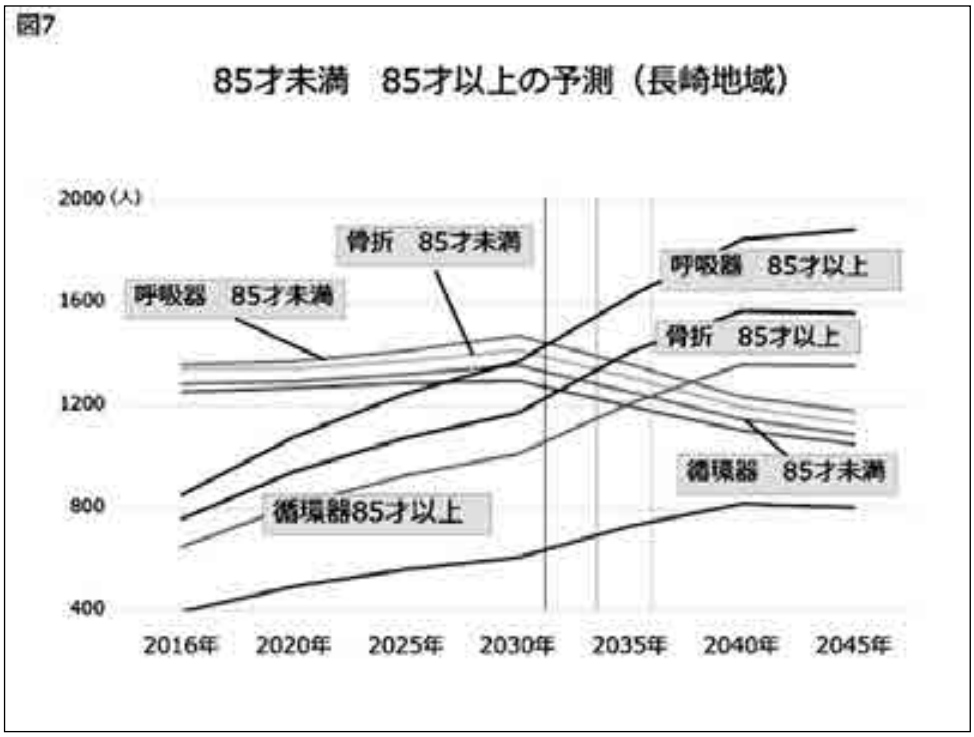
【搬送数の将来予測】

年齢層別の搬送数(搬送率)が一定であると仮定し、将来人口数予測とかけあわせることで将来の搬送数を予測してみた（図５）。今後人口は一貫して減り続けるが、2030～2035年頃までは85歳以上の搬送数が増え続けると予想されているため、全体の搬送数は増加すると予測される。しかしながらそれ以降は70～85歳の高齢者の減少が著しく全体の搬送数も減少に転じ、さらに将来的には85歳以上の搬送は急激に増え続けるものの2040年になるとそれも頭打ちになるものと予測される（図６）。





疾患群別にみると、呼吸器、骨折、循環器疾患群は2030年ごろに85歳以上の患者が85歳未満を上回ることが予測される（図７）。



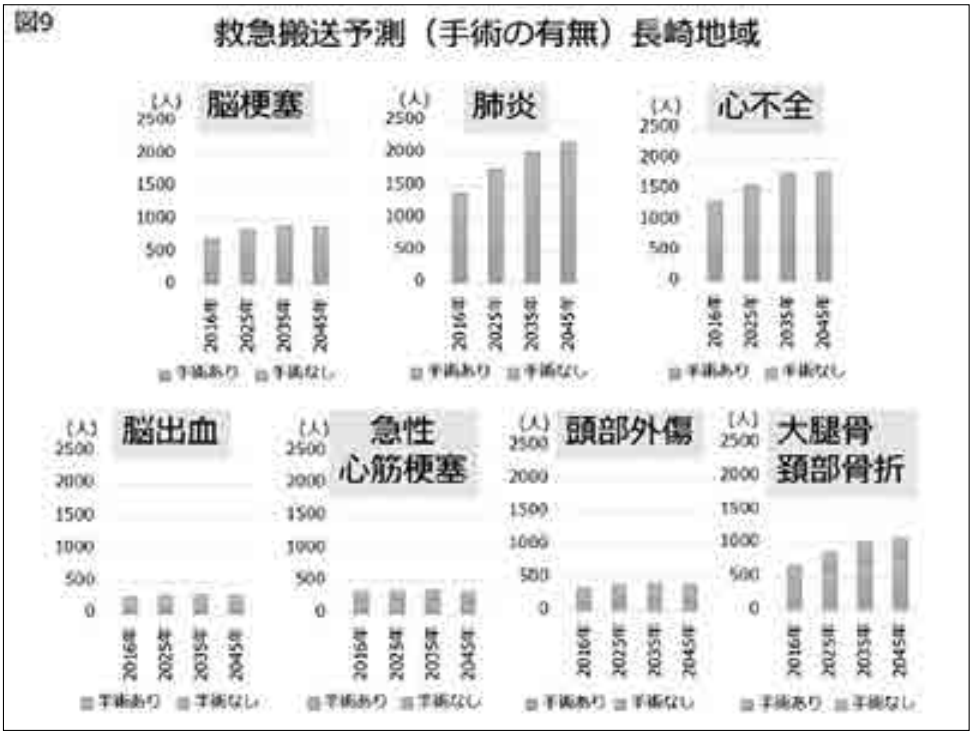
【疾患別予測】

脳梗塞、肺炎、心不全（循環器その他）、脳出血、急性心筋梗塞、頭部外傷（出血）、大腿骨頸部骨折の７疾患について、年齢層別の搬送率と年齢層の人口予測をかけあわせて搬送数の予測を試みた（図８）。

肺炎や心不全、大腿骨頸部骨折など高齢者の中でも85歳以上の高齢者に多い疾患は、現在よりも著しく増加することが予測されるが、比較的若年層に多い急性心筋梗塞や頭部外傷（性出血）は殆ど増加せず2035年頃はむしろ減少に転じることが予想される。さらに手術のあり、なしで予測すると（図９）、大腿骨頸部骨折以外の手術は今後増加せず、むしろ減少傾向にあることが予測される。

全体をまとめると救急搬送は2035年頃までは緩やかに増加し、その後減少に転じるがその主因は85歳以上の年齢層が搬送の最大グループになるためである。更に2035年から、呼吸器、循環器、骨折の搬送の中では85歳以上が過半数を占めるようになる。

疾患別では肺炎、心不全、頸部骨折は増え続けるが、脳卒中、急性心筋梗塞などは頭打ちになり、かつ頸部骨折以外は手術そのものも減少傾向となる。



これらを医療提供体制の面からみると、ICU、CCUといったいわゆる“高度医療”を必要とする患者数は今後増えず、地域の病院で治療可能な（むしろ肺炎、心不全のように繰り返しの入院が必要となるため地域の病院での診療が望ましい）救急患者が増える事が予測される。さらに、これらの増加する疾患のうち頸部骨折などは手術が必要となってくるが、これらは必ずしも“高度医療”を要するわけではない。全体としては“高度医療”が可能なセンター的病院と地域包括ケアに関与する地域の病院（外科は手術が可能、又はなし）の組み合わせが望ましいと思われる。人口規模、地域の病院の事情によってこの組み合わせは変わってくると思われる。人口50万人規模の長崎地区においては病院の周囲の人口数万人規模でカバーする地域病院（一部は外科的手術を行う）と“高度医療”を行うセンター的病院の組み合わせが最も効率的で、かつ地域の安全、安心を守る体制になるのではないか。さらに“高度医療”においても相対的に高齢者の比率は高くなることが想定されこれまで以上に回復期の重要性が増すことが想定され地域における連携体制が重要となる。

【終わりに】

長崎地区の救急搬送数をもとに将来の救急搬送の予測を行った。

超高齢化の進展とともに搬送される患者の様相が大幅に変わることが想定されそれに対応した体制作りを検討する必要がある。

なお本報告の要旨は地域の包括的な医療に関する研究会セミナー（2018年９月８日於長崎市）にて「地域包括ケアシステムと救急医療」と題して発表した。